

羽生市 雨読晴耕村舎

H19年の12月2日に3名で雨読晴耕村舎の後藤さん宅を訪問しました。

古い民家を手直ししたお住まいと畑、自家産ライ麦などで作った天然酵母パンなどの加工品を製造販売している糧工房(加須市)をみせていただきました。



ヤギが2匹 子供たちの人気者

後藤雅浩さんが有機農業と一級建築士の兼業をはじめた経緯

—ホームページなどから—

雨読晴耕村舎 HP アドレス <http://www.cam.hi-ho.ne.jp/masa-goto/udokuindex.html>

阪神大震災当時、東京で一級建築士として高層ビルのプロジェクトにたずさわっておりました。

調査のため、震災の直後に現地に入り、すさまじい破壊の後をみてまわり、都市の脆弱さを体感、自分の中で自分の仕事の方向性を再検討する必要を感じはじめました。

プロジェクトが完成した後、会社から独立して半年間ヒントを与えてくれそうなところや先駆的な仕事をしている人を訪ねてまわりました。

そして、消費や排出するだけの人口集中の都市型社会から、生産し物資を循環させる人口分散の田園型の社会へ移行が、子供達の時代を「持続可能」なものにする大前提と考えました。そして田畑を耕しながらいろいろな提案をしてゆく今のスタイルをやりはじめることにしたのです。



→庭の一角にあるツリーハウス

*雨読晴耕村舎・糧工房については、ホームページ、ブログにくわしく出ています。



【お話から】

家畜は鶏とヤギ 野菜は年間50種類ぐらい 米と麦を栽培

肥料づくりは、三重県の橋本力男さんの指導を受けて、豆腐屋さんのオカラ、米ヌカ、ブナの木のおガクズ、落葉などを材料に堆肥作りをしている。9年間続けてきたため。最近では地力が豊かになり、肥料をあまり施さなくても野菜が採れるようになってきた。

田んぼの稲作も9年目のある日、トラクターを盗まれてしまって代掻きができなくなった。

やむをえず、レンゲ緑肥不耕起の田植えに苦労した。ところが、育ちはじめてからは、順調で今まででいちばんよいできになった。

{ 環境学習 }

生涯学習セミナー・・・大人30人に、森の土の観察と土ぼかしづくり

子供たちが通っている保育園・・・保育さんと園児が野菜づくりをしている中、給食などで、出る生ゴミをコンポスターで堆肥にしようとしたが、臭くなって困っていた。

家から堆肥の材料を持ち込み、ボックスなども使って、堆肥化できるように協力。

羽生東中学の女の子4人組・・・草取り、鶏の世話、稲のハザ掛けなどを体験してもらう。

「楽しいのでもっとやりたい。」ということに。

羽生東中学科学部・・・1年を通しての稲作の総合学習プログラム 新田を築くことから、全般を体験 などなど



(建築)

国産の木材を日本の林業を[使うことによって支える]ことにしていこうと、木を使ったセルフビルド建築の開発を続けている。素人でも小屋をしょうぶにすることが手軽にできる工法や金具を開発している。

糧工房は考案した金具を使い、自分で建ててみた。

天然酵母パンやジャム、生姜やハーブなどの加工品を製造販売している。

糧工房 かてこうぼう(加須市)

有機農家がやっている天然酵母パン・スローフードのお店

ブログ <http://masa-goto.blog.drecom.jp/>

開店 金・土・日の11時～午後5時
東武伊勢崎線加須駅から車で10分

電話とFAX 0480-68-5892



←2Fは乾燥室になっている